

P2~4	ミニ企画展 新収蔵品展
P4	ミニ企画 大津絵大図解
P5	学芸員のノートから
P6	収蔵品紹介

# 大津歴博 だより

第97回ミニ企画展

## 新収蔵品展

平成24年5月29日(火)～7月8日(日)



購入1 大津絵 天神 1幅 江戸時代

大津絵天神の初期作。およそ350年前の作品。当初の描き表装ではなく、軸木が桐の、珍しい江戸後期の表具。画面の横幅は若干切られている。天神は、文芸上達を祈願する本尊として、歌会や句会で用いられた。



購入3 猿猴図 紀樞亭筆 1幅 江戸時代

紀樞亭(1734-1810)は、与謝蕪村に絵と俳諧を学び、近江蕪村と呼ばれた。断崖上の日本猿が手に花をつまみ、こちらに視線を向ける。文人画家が日本猿を描くのは珍しく、屈託のない猿の表情に樞亭らしさが表れている。



購入2 松林独往図 皆川淇園自画賛 1幅 江戸時代

膳所藩主への漢学のご進講役・藩政諮問、ならびに藩士の教育水準の向上に功績のあった儒学者、皆川淇園(1734-1807)による繊細な描写をみせる文人山水画。息子の皆川充の極め書きが墨書された印籠蓋の箱を伴う。

## 第九七回「三」企画展

### 新収蔵品展

■五月二九日(火)～七月八日(日)【休館日：月曜】

歴史博物館では、毎年「三」企画展コーナーにおいて、新たに収集した資料を紹介する「新収蔵品展」を開催しています。平成三年度は、希少な古大津絵をはじめ、皆川淇園や紀樸亭・横井金谷の文人画、明治初期の石山寺参道を写した古写真、日吉三橋のコレクションや戦後高度成長期の大津を記録した写真類など、大津の歴史と文化を語るうえで、大変貴重な資料が新たに加わりました。本展では、大津の様々な歴史の一端を、新収蔵品によって触れていただくとともに、皆様のご家庭に残されている資料についての情報をお寄せいただく契機になれば幸いです。

#### 【購入】(表紙作品も含む)

- 1 朝熊山雨宝童子図 横井金谷自画賛 一幅 江戸時代  
与謝蕪村風の山水画が多い金谷作品としては異色の垂迹画。坂本に在住していた最晩年の作。彼の画業の幅の広さを窺わせる作品。
- 2 手彩色古写真 大津石山 一点 明治時代  
明治期に撮影された手彩色による古写真。現在の京阪電車石山寺駅あたりから、石山寺方向に撮影されている。
- 3 近江地誌 一冊 明治時代
- 4 滋賀縣管内地理書 一冊 明治時代  
6は滋賀県私立教育会によって編纂された地誌。7は県内初の地誌教科書。いずれも地域内の概略を記している。
- 【受贈】
- 1 紙本著色金剛童子像 一幅 江戸時代 滝岡早一郎氏寄贈  
金剛童子(青童子)は、密教絵画の一つ。当初の彩色がよく残り、江戸時代の密教絵画を知る上で貴重な仏画。
- 2 日吉三橋之図 梁古筆 一幅 江戸時代(慶応二年(一八六六) 高阪正夫氏寄贈  
幕末に、实景に即して日吉三橋を描いた真景図。三橋周辺の様子が記録的に描かれて

いる点は貴重である。三橋が日吉社境内の一景物から独立した名所として近代では扱われるようになってゆくが、その初期の例証となる作品。

- 3 日枝三橋上酒宴図 富岡鉄斎自画賛 一面 明治時代 高阪正夫氏寄贈
- 4 焼葉煖酒 富岡鉄斎自画賛 一面 明治時代 高阪正夫氏寄贈  
3は、大宮川にかかる三橋において富岡鉄斎らが催した酒宴の席で座興として即興で描き、和歌を添えた作品。4は、3と共に揮毫された作品で、本来なら4が題字として3とともに卷子として表具されていたと思われる。
- 5 平安建都千百年記念木版桓武天皇御宸影図 一幅 丸尾俊彦氏寄贈  
平安建都一〇〇〇年の翌年、明治二八年(一八九五)に、延暦寺にて創建にゆかりの深い桓武天皇を顕彰した記念大法會が執り行われた。それに伴い、延暦寺が、伝来の桓武天皇御宸影を絵本版摺りの複製にして頒布したもの。
- 6 絵変り十種大津絵貼交屏風 六曲一隻 明治・大正時代 宮川昌幸氏寄贈  
十種大津絵が、パロディ化されて描かれている。例えば長刀弁慶と釣鐘弁慶を融合させ、さらに猿の「釣鐘提灯」の画題も盛り込むなど、本来の大津絵の図柄を大胆にアレンジしている。
- 7 滋賀県物産陳列場土産物関係資料 一括 大正・昭和 深津良樹氏寄贈  
同陳列場では県内企業の要望に応じ、県内の土産物の図案等の作成を仲介した。それらの図案等や大津絵関係絵葉書類が含まれており、当時の県物産陳列場の活動や、物産品の制作過程に関する好資料。
- 8 M・ダウンテンダイ著作等関係資料 一括 明治・昭和 河瀬文太郎氏寄贈  
マックス・アルベルト・ダウンテンダイ(一八六七―一九一八)は日本に立ち寄った際に、近江八景の風景に心を打たれ「近江八景の幻影」を著述した。本資料は、翻訳出版した寄贈者に対し贈られた初版本(一九一一年)を始めとする一連の著作などの関係資料。
- 9 露国皇太子殿下見舞品献上に付礼状 一紙 明治時代 澤田嗣郎氏寄贈  
明治二四年(一八九一)五月一日、ロシア皇太子ニコライは太湖汽船で唐崎の松を見学した。大津事件発生後、全国から皇太子のもとへ見舞品が贈られたが、礼状は寄贈者の祖父安次郎氏が「唐崎古松実生荳蔻」を献上したことに対し、下阪本村長から発行されたもの。
- 10 明治大正昭和期地図資料 一括 明治・昭和時代 大橋浩三氏寄贈  
明治から昭和時代の各府県地図などの一括資料。当時の街道や鉄道網なども詳細に記入されており、近代史の調査や研究には恰好の貴重資料である。





購入 4 朝熊山雨宝童子図



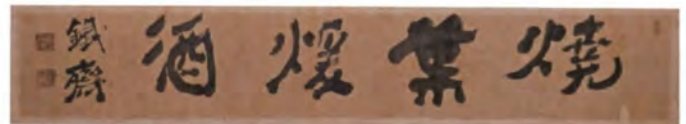
受贈 1 紙本著色金剛童子像



受贈 5 木版桓武天皇御宸影図



購入 5 手彩色古写真 大津石山



受贈 4 燒葉煖酒



受贈 3 日枝三橋上酒宴図



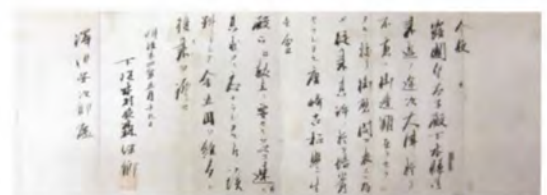
受贈 6 絵変り十種大津絵貼交屏風 (部分)



受贈 7 滋賀県物産陳列場土産物関係資料



受贈 12 東海道五十三次蒔絵杯



受贈 9 露国皇太子殿下見舞品献上の礼状





松本英雄氏撮影航空写真  
(琵琶湖大橋と水上飛行機)



二谷信太郎氏撮影写真  
(びわ湖パレイ)

- 11 俳句比叡山を越えて 荻原井泉水筆 一幅 昭和時代 高阪正夫氏寄贈  
俳句機関誌「層雲」の主宰・荻原井泉水が坂本来訪時に揮毫したものである。碧梧桐と進めた新傾向俳句運動の作風とは異なり、晩年の平明な写生俳句調の句。「古かえて三橋の茶屋に おりつきぬ」。
- 12 東海道五十三次時絵杯・杯台 十三客・一基 明治時代 高阪正夫氏寄贈  
東海道五十三次を十三客の入れ子杯に時絵した什器。歳寒三友(松竹梅)杯台が附属する明治初期の漆芸品。
- 13 伊万里染付木賊文三ツ組皿 一組 明治時代 高阪正夫氏寄贈  
薄手で精巧に成形された伊万里の染付。無銘。絵付けも、細線によって乱れなく精緻に描写されており、明治期らしい高度な技術をみせる。
- 14 坂本名所誌 吉田初三郎画 一点 大正五年(一九一六) 高阪正夫氏寄贈  
坂本保勝会(代表者は坂本村村長)が発行した名所案内。パノラマ鳥瞰図で有名な吉田初三郎の初期の作品。
- 15 松本英雄氏撮影航空写真(松本英和氏寄贈)・16 びわ湖大博覧会関係資料(森みどり氏寄贈)・17 二谷信太郎氏撮影写真(二谷信太郎氏寄贈)
- 15は昭和三・四〇年代に浜大津を発着していた水上飛行機のパイロットであった父英雄氏が、上空からの町並み等を詳細かつ広域に記録したものだ。16は博覧会設計者の砂畑重雄氏が記録した写真や記事など。17は昭和四〇年頃から琵琶湖周辺に次々と開設されたレジャー施設を中心に、琵琶湖周辺の観光地の様子が記録されている。
- 18 防火水槽 一基 昭和時代 川村鯛平氏寄贈  
太平洋戦争時、米軍による空襲に備えて設置した防火水槽。大津では昭和一八年頃から本格化したとみられる。

第96回 ミニ企画展

大津絵大図解

開催中 5月27日(日)まで



大津絵  
鬼鼠杵  
本館蔵

江戸時代を通じて大津の代表的な名産であった大津絵。当時の日本各地における土産物番付においても、西の前頭にあげられています。大津絵が売り始められたのは、近世の東海道の整備が始まった江戸時代初期と推定され、寛文元年(1661)の文献に確認することができます。

その当初は、もっぱら仏画が描かれていましたが、土産物競争の中で、浮世絵や絵本の流行に歩調を合わせた大衆化路線へ進みます。そして江戸時代中・後期には、美人画や役者絵的な画題をはじめ、動物や鬼を擬人化させて滑稽に描く風刺画のキャラクターたちを登場させ、旅人の心をつかんでいきました。その当時の人気ぶりは、同時代の浄瑠璃や謡曲などにも取り上げられたことからうかがわれます。

本展では、伝統的な仏画や日本絵画における尊像やモチーフが、大津絵では制作・販売上の理由で、どのように簡略化されているのか、また、風刺や滑稽、教訓、護符の意味によって、どのようにアレンジされているのかについて展示で図解しながら大津絵キャラクターの図像を紹介します。

## 当館で紹介した作品が市指定文化財になります

大津市歴史博物館では、地域に眠る文化財を調査研究し、展覧会等で紹介させていただき、市民の郷土への愛着と理解をより深めていただくよう努力してきました。今回、こうした流れの中で展示させていただいた作品が大津市有形文化財に指定されることになりました。大津市坂本の山王講で守り伝えられてきた日吉山王曼茶羅図がそれです。

大津市坂本を起源とし、延暦寺や日吉大社への信仰の中で産み出されてきた絵画作品として「日吉山王曼茶羅図」があり、山王信仰が全国に広まるなかで、各地に中世を遡る作品が残されています。当館では、こうした「日吉山王曼茶羅図」を中心に、山王信仰にかかわる作品を集めた展覧会として、平成18年企画展「天台を護る神々」、平成23年「日吉の神と祭」を開催してきました。その中で、地元坂本で守り伝えられてきた山王講の本尊である「日吉山王曼茶羅図」についても、格別のご理解を得て展示させていただきました。

山王講は、延暦寺と係りの深い山門公人の伝統を持つ家々に結成されている講で、かつて六つの講がありました。この講に古い「日吉山王曼茶羅図」が伝えられていることは、江戸時代の記録にも見られますが、実際の作品が紹介されたのは、当館の展覧会がはじめてです。現在ある講のうち、四つの講に伝わる「日吉山王曼茶羅図」が中世に遡る貴重な作品で、美術作品としても貴重ですし、坂本の歴史を反映し守り伝えられてきたことも貴重な事例です。こうしたことから、本年度、大津市の有形文化財に指定されることになりました。

市内にはまだまだ多くの貴重な資料が埋もれているものと思われます。博物館としては、こうした資料の発掘と、調査研究を経た上での展示紹介という作業を地道に続けていき、大津の文化を再発見していただけるきっかけになればと願って活動しています。 (和田光生)



絹本著色日吉山王垂迹神曼茶羅図  
1幅 山王講・蔵之辻伴蔵



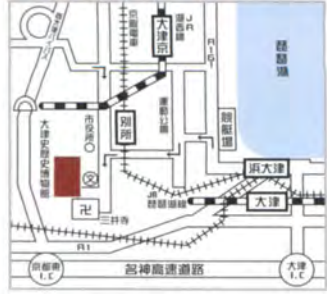
# 柳宗悦が惚れ込んで装いを仕立てた大津絵長刀弁慶 なぎなた べん けい

民芸運動提唱者の柳宗悦やなぎむねよし（1889-1961）は言わば民芸スタイリストでもありました。日本民芸館も柳の民芸美学で構築された空間ですが、本館所蔵品にも、表具・箱など一式が柳好みに仕立てられた「大津絵 長刀弁慶」があります。では、柳のお好み仕立てを具体的に見ていきましょう。

まず、箱蓋表書・帙口貼・軸裏貼の外題ですが、全て柳の自筆です。帙は和更紗と思われる裂を貼った特製です。そして表具裂は、柳自らの好みによる丹波布まわを廻し、友人の陶芸家バーナード・リーチしんざによる辰砂釉あつらの陶軸ゆうが取り合わされています。まさに柳が全面的に関与した至れり尽くせりの謎えです。なお、表具全体の天地のバランスが、通常の袋表具に比べ、地（下）が若干長い点も、柳独自の好みと思われます。柳が大津絵の表具に好んだ丹波布は、糸の組織が太く不揃いで、きれいに巻く軸には適さない裂地ですが、表具の裏打ち紙の増裏を省略し、肌裏と総裏で仕立て、軸として巻けるよう工夫しています。増裏紙がない分、丹波布の組織の凹凸が軸の裏貼に露わに出ており、手に取るとごつごつした感触のお軸ですが、逆にその風合いが、結果的に柳の民芸的美学に適ったのでしょう。リーチの軸首も、焼成時の収縮のため、左右で形状が異なります。江戸期のうぶな描き表具が残る大津絵が重要なことは言うまでもありませんが、柳の美学の重装備で固められた大津絵もまた、大津絵の歴史の一時代を物語る作例です。（横谷賢一郎）



## ご利用案内



- 交通機関
  - ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
  - ・JR 大津京駅 徒歩15分
  - ・JR 大津駅、バス10分別所下車
- 駐車場 約70台（無料）

### ■常設展示観覧料

区分	個人	団体(10名以上)
一般	210円	160円
高校生・大学生	150円	120円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日に限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### ■開館時間

午前9時～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

### ■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）  
 祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）  
 年末年始（12月27日～1月5日）  
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

### ■歴博カードのご案内

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号  
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>